

第9回高知県教育振興基本計画検討委員会の議事概要

- 1 日 時 平成21年7月21日(火) 13:30~15:30
- 2 場 所 高知県庁 正庁ホール
- 3 出席者 ○委員： 松永委員長、加藤委員、公文委員、高地委員、筒井委員、時久委員、徳久委員、野嶋委員、浜田委員、古谷委員、松原委員、森委員、村岡委員、山本委員、横田委員
○県教育委員会等：中澤教育長、東教育次長、池教育次長、教育委員会事務局各課長、教育センター所長、各教育事務所長(代理含む)、心の教育センター所長、他教育委員会事務局職員
- 4 概 要 (意見交換)
委員長 中間取りまとめから変更した部分や、文言等も含め、計画案の最終段階となるため意見をお願いしたい。
- 委員 教育現場でPDC AやOJTという言葉が使われることに驚いたと同時に、どういうことがされているのかについて興味を持っていた。P30に「教育行政が組織的・継続的に取り組まれていたか、教育課題を着実に解決し、PDC Aサイクルが重要」とある。しかし、問題点の掘り下げという部分が書かれてないと思う。PDC Aサイクルは、本当の問題は何かということを検証していくことが大事な取組だと思うので、真の問題点を特定するプロセスというものをもう少し盛り込んだらいいのではないかと。
また、教育現場での教員の多忙感の問題にしても、実は多忙じゃなくて多忙感だという議論があった。多忙感については、報告書作成が多い、仕事の優先順位がつけられない、教員に達成感がないことなどが原因だという意見があった。この中で、達成感がないことが原因だという意見は、問題の真意にかなり近いのではないかと思った。教員に達成感をどういうふうに持ってもらうのかという文言が、ここにはあまり書かれてないと思う。
- 委員 「家庭は一つの原点であり、最終的な責任者」、「地域は教育を支える基盤」になってよくなった。
また、資料5-1の全体構成は非常に分かりやすい。計画の冊子は膨大で、細かく書かれていてこれを一つ一つしないといけないと思うとしんどくなるが、この資料だと計画がすっきり頭に入り、教育を全体として考えることができる。校長が学校の経営計画を考える時に、このように大きな捉え方をすれば、教育を考えていけるし、多忙感も解消されるのではないかと思う。
- 委員 ・「はじめに」に最後の3行教育改革を通じた「早ね 早おき 朝ごはん」→「教育改革で生まれた」とかいう表現の方がいいのではないかと。
・P9の②の最後の行「特に県立図書館では施設の狭さ等」→例えば「県立図書館はその規模や機能において十分とは言えず」というように直すのはどうか。

- ・ P9 の③の 2 行目「テレビやパソコン等の教育環境に左右されない」→「読書は自ら学ぶ、自分のペースで学ぶ、必要に合わせて調べるなど、主体的な学習の方法として大切な役割を持っています」がいいのではないか。
- ・ P12 後ろから 5 行目「国語は 44 位、数学はまだ離された 46 位」→「数学は 46 位となっています」でいいのではないか。
- ・ P14 の 5 行目「喫緊の課題」という表現はほかにも 2 カ所ぐらいあるが、県民に向けた計画では「充実が急がれます」がいいのではないか。
- ・ P14 の 6 行目「専門知識の修得を進めていかなければなりません」と続けているが、「なりません。」「しかしながら・・・」とした方が読みやすいと思う。
- ・ P15 上から 2 行目「高知市内校を中心に約 4 倍」→「高知市内校」という言葉はいらないのではないか。県全体で少しずつそれぞれが成果を出していると思う。
- ・ P15 の 5 行目の「進学者数は少なく」→ここは、はっきりまだ少ないという意味を込め「なお」と入れたらどうか。
- ・ P15 の下の表の「定員」→例えば私の属する安芸高校は卒業生数が少ないので、「卒業生数」にさせていただけたらいいと思う。
- ・ P16 の 3 行目「中学生と比べてもさらに家庭学習」→「さらに」は除いて、「中学生と比べても家庭学習が不十分な実態」がいいと思う。
- ・ P16 の 4 行目「じつげん」→「実現」にし、「実態が」の「が」は不要。
- ・ P18 の下から 3 行目「非行率も毎年のように全国最低水準にあります」→「非行率は高い」のだから、表現を変えないと、意味がおかしくなってくると思う。
- ・ P19 の 3 行目「自然豊かな環境にあるにもかかわらず」は手前に持ってきた方が読みやすい。
- ・ P21 の最後の 2 行が後退していると思う。「課題に対応した効果的な校内研修など学校の組織的な取り組み」とあるが、「課題であると言わずにおれません」というようにはっきり示さないとトーンが合わないような気がする。
- ・ P24 の「進取の精神に富む」で、生涯学習の観点、自ら学ぶ、興味・関心を抱いてコツコツと学んでいくその精神から見ても、「牧野富太郎」は入れたい一人ではないかと思う。

委員長

資料は事前に送ったが、まだ読み切れてないと思う。文言も含めて私たちの責任として出される。よりよいものにしたいと思うので、気になる箇所について指摘して欲しい。

委員

「家庭が教育の最終的な責任者」としていいのか気になる。第 3 章「家庭は教育の原点である」は、教育は家庭から始まり、社会のルールなどを教えるということも家庭にとっての重要な機能であるのはそのとおりだが、計画で「家庭を最終的な教育の原点であり、教育に関しての最終的な責任者」と言っているのが個人的に気になる。教員の立場ではなかなか言えないこと。

第 4 章と第 5 章の関係だが、3 つの視点、10 の基本方針がある。10 の基本方針に関しては、第 4 章では非常によく分かりやすく説明があるが、第 5 章になって、「重点的な取り組み」があり、「方向性」、「主な取り組み」がだぶっていて、構成上分かりづらい感じがする。

委員長

「最終的な責任者」については、いくつかの意見や議論があって合意は取れてきた。前回「原点」を入れた方がいいのではないかとということで追加された。今の意見は、「最

最終的な責任者」は大変微妙な表現であるため、一言でいうと学校教育の責任はどうかかなど、短い言葉で表現するといろんな問題が出てくるということ。最終的にどういう表現にするかについて意見ををお願いしたい。

また、教育委員会、学校、家庭、地域の順番で並べるかについても議論があった。これは並列なのだが、章ごとに並べると、教育委員会、学校、家庭、地域という順番になる。これについても、もう少し意見ををお願いしたい。

委員 皆様から色々な意見があり、それを汲み取ったある種のバランスでこういうかたちになっていると思う。それぞれの思いをもう一度言い始めたら、バランスが崩れることになる。そういう微妙なバランスになっているのではないかと私は解釈している。

委員 「家庭は最終責任者」については当たり前のことだと思う。ただし、これはスローガンとしても捉えられるものであり、1年以上かけて作った計画をそのまま配付しても、誤解が生じることもあると思う。「家庭が最終の責任者」については私は賛成だが、こういうことについては価値観の問題が出てくると思う。誤解を生まないためにも、こうなるまでのプロセスの注釈などをどこかに入れることができないかと思う。※印をつけてこういう意味だという説明があれば、より理解しやすいのではないか。県民への周知として、この計画の冊子を配布する予定なのか。

事務局 この計画は、事務局が行う行政的な計画であり、「はじめに」にもあるように県民の皆さまのご理解が必要であるということで、P91「策定後の主な取組み」を入れている。8月に計画を策定し、9月以降に周知・啓発を行う。周知・啓発時には、計画の冊子、要約版として分かりやすくしたリーフレット等を作成し配付する。また、10月から12月にかけて懇談会を開催し、PTAの会などにも出向きリーフレット等を使って幅広く説明し、意見をいただくことになると思う。これを配っただけでは、見てもらうことは難しいと思う。

委員 P4の下の枠囲みの「それぞれの実情に応じた教育施策」とあるが、教育施設も、山や自然などの環境もあるので「教育内容」の方がインパクトがあるのではないかと思う。

P50の「方向性」に「農業・林業・水産業など、高知県の強みや特性を活かした専門」
「充実を図ります」とあるが、P51実施計画に具体的に書かれているのは海洋高校のことだけになっている。高知県がこれから農林業、商業を推進するため、キャリア教育を含めた具体策があれば理想的だが、今作るのは難しいので、今後の課題として取り上げて欲しい。

P81の最後に「各市町村教育委員会と協議を行い、地域アクションプランを認定する」とあるが、この地域アクションプランを各市町村教育委員会が実施するとき、農・林・水・商業の関係者が入って、一緒に計画を進めていけば、もっと産業振興計画とこの教育振興計画が結び付いて、いい地域アクションプランができるのではないかと思う。

委員 先ほどの「家庭は最終的な責任者」についてだが、自分が子どもを持っている親として考えれば「家庭は最終的な責任者」はいいと思うが、教育現場で職務をしている私にとし
ては、責任を転嫁しているようで少し引かかる。

P19「体力が全国で最低水準にある」の下の枠囲みの文章が分かりにくい。

事務局 P 19 の表現等は、整理する。

委員 「はじめに」の文章の中にどういう子どもを目指したいかを入れたい。高知県の子どもをどんな子どもにしたいのかということがあって、それに対して、県、学校、家庭、地域が立ち上がっていくものだと思う。下から 2 段落目「この計画は、高知県教育委員会が教育行政の責任として策定」とあって、教育委員会が実行し、学校も責任を持ってやっていく。そして、家庭の基盤がしっかりできていると、あとの積み上げがもっとうまくいく。
高知県の子どもをどう育てていきたいのかについて「はじめに」の部分で語ると、教育委員会も、学校も、家庭も、地域も、みんなでそれをやっていきたいと思いますという呼びかけができていくのではないかと思う。

委員長 そのことも含めて、「はじめに」の部分を検討したいと思う。

委員 私も今の意見に賛成。これは振興計画を作ったという「はじめに」であって、子どもたちは、自分がどんな子どもになるのか分からない。例えば「高知県は元気な子どもを育てます」「優しい子どもを育てます」、「頑張る子どもを育てます」というような子どもや保護者にも分かりやすい、非常に集約された簡単な言葉の投げかけが必要だと思う。そして、「教員はここをこう読んでください。」「地域の方はここをこう読んでください」というように中身を解釈してもらった方がいいと思う。今のままでは、非常に行政的であるため、笛を一生懸命吹いたが、踊り手にはその笛は聞こえていないということになると思う。もう一度、これを書き直すのではなく、もう一つキャッチフレーズを作ったらどうかと思う。

委員 全体通して非常によくまとまって素晴らしいが、心に伝わってくるものが少ない。この計画の中に「愛情を持って」という言葉が少ないことが理由だと思う。自分たちがどう育られるのか、どういうふうに教育されていくのか、この計画を読んだ時に「愛情を持って」という文言が含まれていれば「自分たちは大事に育てられるべき人間なんだ」と思うのではないか。高知県民は、非常に情が厚く、人間性に富んで、愛情も深く、人を大切にする県民性。自分の子どももそういうふうにつつとよいと思うので、どこにということではないが「愛情をもって育てる」という言葉が必要ではないかと思う。

(事務局から「今後のスケジュールについて」説明)

委員長 「今後のスケジュールについて」意見や質問はないか。

委員 9 月にリーフレットを作成し配付するというので、対象は児童生徒、保護者、教職員など全関係者となっているが、これは対象者ごとに作るのか。先ほども発言したが、児童生徒に配るにはこれは難しいのではないか。児童生徒用として、もう少し分かりやすいようなものを作ることはできないか。

事務局 それぞれの対象ごとにリーフレットを作ることは難しいと思う。予算的なこともあるので検討させて欲しい。

委員 こういう計画は、きちんと作られ、誰が見ても非常に分かりやすいかたちになっているが、実際には末端まで届かないことが現実としてある。高知県教育委員会はこの計画がしっかりと見えているが、市町村教育委員会ではこれをしっかりと捉えることができるのか。また、校長会や校長等管理職は捉えることができるのか。どう捉えるかで温度差が生じる。

 そういう温度差を生じさせないために、「地域アクションプラン」についての市町村教育委員会との協議は非常に大切にして欲しい。市町村は、市町村の教育振興基本計画をきちんと作れるのか。市町村教育委員会任せにしてしまうとそこで温度が冷め、その教育委員会が校長等に下ろすとさらに温度が冷めていく。そういうことが繰り返されてしまうことで、末端まで届かなくなる。市町村教育委員会の取組みをある程度、評価をしていく必要があると思う。

事務局 教育版「地域アクションプラン」の実施について、全ての市町村教育長と直接話をした。市町村の教育内容については、市町村が主体性を持ち、今行っている事業を継続するのか、新たな事業に取り組んでいくのか、県教委に対する情報発信や認定のためにどう質を高めいくかを検討する必要がある。そのためには県の基本計画を認識してもらう必要がある。市町村教育委員会は、振興計画もしくは点検・評価の中で県の計画について取り組んでいくという考えを持っているので、県の振興計画も市町村教育長に理解してもらい、各校長会等でも説明するように予定している。

委員 こういう計画は、絵に描いた餅になりかねない。PDCAサイクルの問題も含め、周知等を行い取組んでいかなければいけないと思っている。

委員 先日の新聞で、前教育委員長が小規模な市町村教育委員会の事務局体制の弱さを指摘されていることが書かれていたが、今回のこの資料の中にもそういうようなことも指摘されていた。少人数学級等における課題の資料も以前見たが、子どもたちの状況と教育委員会の体制とは関係があるのか。

事務局 市町村の教育委員会事務局は、規模にかなり違いがある。例えば、小さい市町村だと、1町村に1小学校、1中学校。事務局職員は、教育長、次長と3~5名といった規模の教育委員会もある。そのため、教育の専門性などが確保しづらい状況もあり、教職員数も少ないため、研修などの質的な充実が非常に難しい状況があることも事実。

 そういったことを解消するため、例えば中芸地区では、5カ町村が連携して教員が研修をするという協定を結び、県教委もコーディネートをして進めていくということもしている。また、学校事務についても、小規模市町村においては、できる範囲で一緒にやるということが進んでいる地域がある。

委員 学力との関連性はあるのか。

事務局 微妙な答えになると思うが、学校内に複数の教科の教員がいれば、様々な困難な状況を協議しながらよりよい方法とかを探っていくのが、小規模校で1教科1名の教員であると、その教員の経験が直接的に作用することはあると思う。市町村の枠を超えて相談にいけるような人間関係を作るなどの対応をする必要がある。

委員長

本日の検討委員会以降については、今日の意見、欠席されている委員からの意見、今月末までにいただく追加の意見を事務局で整理をし、計画を修正をしたいと思う。修正した計画については、事前に委員の皆様にお届けをするが、最終的には委員長の私と2人の副委員長に一任願えたらと思う。この検討委員会は最終決定権を持っているのではないので、計画の最終的な案を取りまとめる。それについて、8月下旬の教育委員会で諮り、承認されると計画が決定されるということになる。

最後に皆様にお礼を申し上げたい。昨年9月24日の第1回目検討委員会から10カ月余り、全回数9回の検討委員会を開催した。思い起こせば、1、2回目はフリートークという形にして、話題の学力の問題や体力調査の問題にかなり議論が集中し、大変大事な問題であり十分に議論をした。そして、徐々に総合的な計画というところへ議論が進んでいったと思う。9回の検討委員会では、その都度の検討委員会後にも、委員の皆様からの追加の意見をいただき、計画に盛り込ませてもらった。ご協力に本当に感謝している。

また、事務局は、乳幼児期の問題から生涯学習までの教育全体について議論をするということで、委員の皆様からの資料の要望もあり、色々な作業をお願いした。パブリックコメントも産業振興計画に比べれば少ないかもしれないが、多くのパブリックコメントをいただき、できるだけこの計画（案）の中にも反映させたと思う。委員の皆様と事務局の協力があってここまで来たと思っている。感謝を申し上げてこの会を締めくくりたい。ありがとうございました。

事務局

本日いただいた意見については、事務局の方で修正を行う。言い足りなかった意見等については様式を入れているので、7月31日金曜日までに事務局の方へ送って欲しい。いただいた意見は、本日の意見と併せて整理をしたいと思う。

事務局
(教育長)

委員の皆様、昨年9月から長期間にわたり、さまざまなご議論、ご意見をいただき本当にありがとうございました。おおよその方向が見えてきた。問題は、本日も委員の皆様の意見にもあったように、このプランをどう実行していくのか、どう検証し、どう改善していくかが問われると思っている。また、計画が末端まで届かないということを繰り返してはいけないという話もいただいた。そういう思いもあり、第2章で「現状のさらなる分析と考察」という項目を設け、県教委からも提案させてもらった。要は、県がこれをいかに実行していくかにかかっていると思う。

委員の皆様方には、これから私どもが実行していく計画について、ご指導やご示唆をいただきたいと思っている。今回で終わりではなくて、後々までよろしくお願いを申し上げて、お礼の言葉とする。ありがとうございました。

事務局

以上で本日の検討委員会の全日程を終了する。皆さま、本当に長い間、ありがとうございました。